

白地図 近畿地方 京都/滋賀↑東

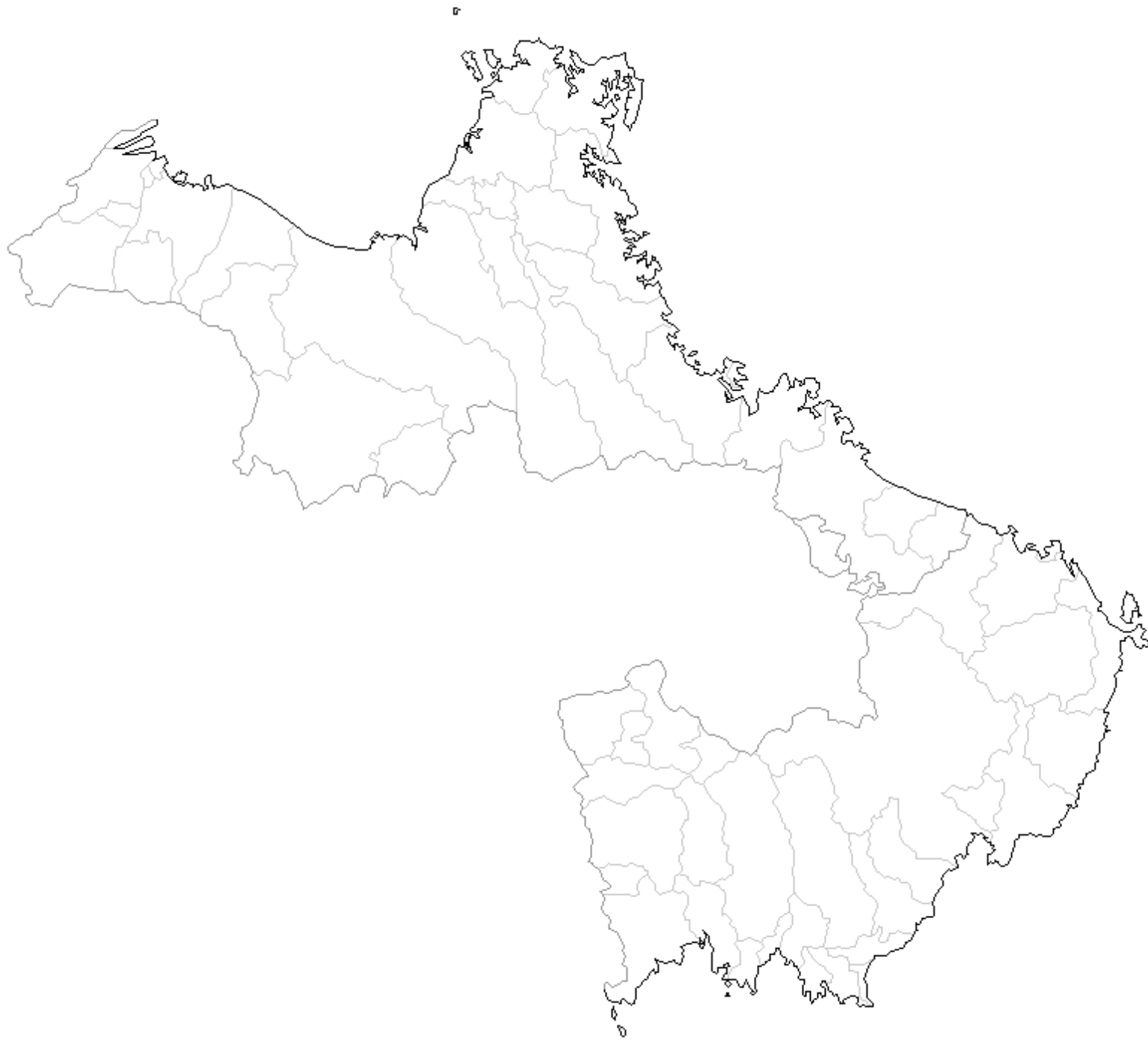


20km



20km

白地図 近畿地方 和歌山/三重 ↑東



# 地理動画集⑤近畿

## 関連サイト

### 大阪府

道頓堀 <http://www.youtube.com/watch?v=XtUBON-wCZw&feature=relmfu>

### 京都府

葵祭 <http://www.youtube.com/watch?v=t4jlv825WDg>

祇園祭 <http://www.youtube.com/watch?v=rONuGnDtdoY&feature=relmfu>

西陣織 <http://www.youtube.com/watch?v=Vda1eyAxCyo&feature=related>

友禅 <http://www.youtube.com/watch?v=Gsas9NRkhD4&feature=related>

清水焼 <http://www.youtube.com/watch?v=BSxvk8L2La4&feature=related>

天橋立 [http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500224\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500224_0000)

### 奈良県

#### 東大寺

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500346\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500346_0000)

#### 奈良公園

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500236\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500236_0000)

#### 唐招提寺

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500334\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500334_0000)

#### 薬師寺

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500149\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500149_0000)

吉野の桜 [http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004340010\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004340010_0000)

### 和歌山県

白浜温泉 [http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430129\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430129_0000)

那智勝浦温泉 <http://www.youtube.com/watch?v=AaIvKxxZga0&feature=relmfu>

#### 那智の滝

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990025\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990025_0000)

#### 高野山

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004100043\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004100043_0000)

### 三重県

伊勢神宮 [http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990042\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990042_0000)

#### 四日市ぜんそく

[http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j\\_archives\\_20060827\\_1785](http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_archives_20060827_1785)

### 滋賀県

水郷 <http://www.youtube.com/watch?v=4XIX8JiRqOE&feature=related>

#### 琵琶湖

[http://cgi2.nhk.or.jp/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990046\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990046_0000)

安土城 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09833/v0982700000000541117/>

比叡山 [http://cgi2.nhk.or.jp/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004230023\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004230023_0000)

彦根城 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09833/v0982700000000541114/>

#### 大津市坂本

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500132\\_0000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500132_0000)

## 高田の独り言

### 「近畿」と「関西」

今回は「近畿」地方について学びましたが、「近畿」という呼称は「関西」と比べるとなじみのない言い方かもしれませんが、語源から言うと「近畿」とは「都に近い」という意味で、現代的に言うと「首都圏」のような、京都を中心とした絶対的な地理概念なのに対して、「関西」とは首都圏である「関東」に対立する相対的な地理概念です。

東日本から近畿に行くと、その入口は滋賀県になります。岐阜県から滋賀県に入るときに、合戦で名高い関ヶ原があります。ここに「不破の関」という関所がありますが、ここから西を「関西」と呼んでいると考えられます。

あるとき東京駅から普通列車に乗って1日、滋賀県まで行きました。そのとき列車の乗客の話し言葉を観察したところ、岐阜県までは関東アクセントでした。しかし関ヶ原を越えるやいなや関西アクセントになりました。十八歳まで出雲で住み、初めて日本の「都市文明」に接した所が関西でしたので、私の場合「標準語」らしきものがかなり関西アクセントになっていると指摘をうけます。そのようなこともあり、その時は「関西に戻ってきた。」と感慨深いものがありました。

大学時代を大阪と京都の間に位置する枚方という町で過ごした私の観察では、「関西人」とは東京（関東）に対して対抗心を持つという共通した特徴した特徴を持った人といえるでしょう。そして「関東」というエリアを限定して対抗心の対象と見なすのは、実は非常に珍しいことなのです。その対抗心は東北や九州、四国等の人が東京に対して持つイメージが「大都会」であるのとは異なります。そこには「都市化において負けている」というだけにすぎず、歴史的な経過を云々するのは一部のインテリにすぎないでしょう。

しかし関西人には日本という国が出来てからこの方、日本文化の中心を担ってきたという自負心があるのです。例えば日本には世界文化遺産が16件あるのですが、そのうち実に5件（京都・奈良・法隆寺・姫路城・紀伊山地）が近畿地方に集まっているのに対し、関東では日光と富岡製糸場の2件のみです。この地域がいかに文化財の宝庫かがうかがい知れるというものです。学生時代、関西のあちこちをくまなく歩き、やはり文化の深さと「物量的な文化財の多さ」に驚嘆しました。関西人が関東に対して一種の優越感とともに「昔の光 今いずこ」的な喪失感を持つのも、非常に理解できます。

### 清水寺探訪

京都を訪れる外国人が必ず訪れるところというやはり清水寺でしょう。「清水さん」はあの断崖絶壁に柱を立てて舞台をこしらえた異形さが京都を、いや日本を代表するかのようにはカレンダーやパンフレット、各種映像などで出するため、外国人もとりにあえずは行ってみたいなのでしょう。

清水焼や京扇子、八橋などの店が並び観光客がひきを切らぬ清水坂や産寧坂を登っていくと、こんなに観光客だらけでもやはりここは古都京都なのだと感じるものです。東京の浅草寺仲見世では、この雅な雰囲気はないからです。

清水寺の山門をくぐって三重塔を過ぎ、舞台を歩くとき、そういえば「清水の舞台から飛び降りる気で」という諺を二次面接で韓国語に翻訳させられたことがあったと思いだしながら、舞台を通りぬけました。やはり舞台に立つよりも向こう岸から舞台をながめたほうが絵になると思いつつも、対岸でシャッターを押す場所を探すのですが、あまりにもおあつらえ向きの清水の舞台に、かえって気恥ずかしくなってくるのが不思議です。

石段を下りて音羽の滝という、「滝」と直訳するとその規模の小ささに驚くほどの三列の清水があり、多くの人が長寿や知恵を求めてその水を飲んでいますが、これこそこの寺が「音羽山清水寺」と名付けられた由来なのです。



ところで金閣を建てたのは足利義満、銀閣は足利義政、平等院は藤原頼道、など京都のメジャーな建物を建てさせた人はよく試験にでるのですが、こんなに有名な清水寺がそもそも試験に出にくく、さらに建てた人に至ってはほとんど知られていないのが不思議です。これを建てさせた人物の一人は歴史試験頻出の初代征夷大將軍、坂上田村麻呂です。そして彼は征夷大將軍として蝦夷を「平定」しに行ったおり、神仏の加護で勝てたというのでこの寺の整備を本格的に進めたのです。

なお、そのとき蝦夷側のリーダーだったのがアテルイとモレです。結局彼らは降伏し、京都に連行されて殺害されたのですが、彼らを顕彰した石碑がこの寺の三重塔の下にひっそりと建っています。福島県を除く東北五

県をかたどった石碑に「阿豆流爲・母礼之碑」と書かれているこのモニュメントは、岩手県水沢市民が中心となっていたたてたものです。この世では敵同士でも、死なば敵味方関係ないという、中韓ではありえない思想がそこには見られます。

ちなみに坂上一族は東漢または百済からの渡来人、阿知使主の子孫ということになっています。ただぶらりと歩けば写真を撮って水を飲んで終わり、というこの著名な寺も実に奥が深いのです。

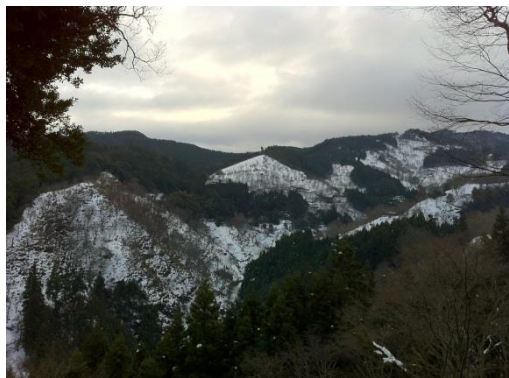
## 奈良・京都と吉野・熊野

奈良や京都が「日本文化の故郷」だという考えがあります。必ずしも間違っているとは思いませんが、近畿地方における「日本文化の故郷探し」に関して、あえて異論を唱えたいと思います。

かつて京都から奈良、奈良から飛鳥、飛鳥から吉野に電車に乗って向かいましたが、奇しくもこのルートは平安京から平城京、藤原京までさかのぼり、さらに古い縄文世界、もしくは霊界への入口である吉野熊野までもさかのぼる旅でした。

大阪から京都に入った時は、軒を連ねる神社仏閣を見て、確かに京都は「日本文化の故郷」と思ったものです。しかし奈良に入ると結局のところ京都市内の寺院の多くが室町以降、古くても鎌倉時代であることに気づかされます。そして飛鳥まで行くと奈良や京都の文化も結局は当時の先進国、唐の最新の文明であったことに気づかざるを得ません。一方飛鳥には時空を超えたような、まるで古代の朝鮮にでもいるかのような感じさえ引き起こさせるのです。

しかしその感覚も奈良盆地に属する飛鳥を離れ、ローカル線とケーブルカーを乗り継いで吉野に向かうとさらに変わりました。山を分け入って吉野口までたどりつくと、山には山の神、水には水の神、火には火の神が普遍的に存在したことが、ここの空気からはごく自然に感じられます。また吉野という南朝の都でもあります。それはこの地が修験道者の歩き回る日本化した密教の聖地であり、大陸文明を拒みきれぬ紀伊山地の入口にあったため、後醍醐天皇が再起を図るにふさわしい地として選んだのです。そしてそこにある文化は、確かに大陸文明流入以前の縄文的なアニミズムの世界なのです。



↑春まだ遠い吉野山。春にはこの風景が桜一色。

しかし吉野という地は、実はより深遠な縄文世界の入口にすぎません。ここから南に位置する一帯の、特に吉野熊野国立公園に指定されている地域は、まさに縄文文化を色濃く残すスピリチュアルスポットです。空海の開いた高野山金剛峯寺から始まり、熊野三山、那智の滝など、紀伊半島の自然そのものを神とみなす固有の信仰が深く根付いているのです。特に火と水を神聖視する縄文的な信仰は根強く、神倉神社の御燈祭という火祭りでは、数百人も地元の男性たちが松明を持って山を駆け下りる姿が圧巻です。また、水といえばこの地域は日本最高の降水量を誇る大台ヶ原山などもあるために豊富な水量と、そのもたらす恵みがたくさんの樹木を育ててきたのです。

ちなみに秦の始皇帝が不老長寿の妙薬を求めて徐福を派遣した場所が、紀伊半島南部の新宮という説もあり、地元には徐福公園が整備されていますし、古代インドからこの地にお坊さんが漂流してきたとされたため、観音菩薩の浄土、補陀洛とみなされています。補陀洛とは大乘仏教による聖地であり、上海南の



普陀山やチベットのポタラ宮などが総本山として有名です。（「補陀洛」、「普陀」、

「ポタラ」は近似音）このように黒潮に乗って海の向こうからもたくさんの文化が入ってきたにもかかわらず、飛鳥や奈良、京都と異なり都ではなかったために都市計画などは行われず、そのことがかえって外来文化の中にも縄文文化が色濃く残ったことの原因でしょう。

吉野や熊野に比べるとそれまで「日本文化の故郷」と思われてきた奈良や京都の寺院や仏像などさえ、しょせんは「舶来品」であり、まるで明治期に欧米から入ってきたレンガ造りの建物やブロンズ像など同一カテゴリーにあるかのように思えてくるほどです。京都、奈良、大阪のみが関西ではありません。

南に行けばいくほど、大陸文化流入以前の「もののけ姫」的な縄文文化が今なお息づいているのです。そしてこれこそがこの紀伊山地をして世界遺産に認定させたゆえんなのです。